

A background photograph of a person's hands holding a silver smartphone. The hands are positioned as if interacting with the device. The background has a subtle pixelated grid pattern.

第2回「情報リテラシーに関する意見交換会」資料

令和7年11月17日

目次

1. 情報リテラシーに関する現状 … 3

2. めざす姿と取組みの方向性 … 5

区民一人ひとりの高い情報リテラシー

3-1. 普及啓発 … 6

3-2. 支援 … 7

【参考】児童・生徒向け実態調査結果 … 8

【参考】ちよだリテラシー教育 … 9

【参考】読書活動により磨かれる力 … 10

【参考】千代田区における読書活動の推進 … 11

【参考】読書活動推進・区立図書館の取組み … 12

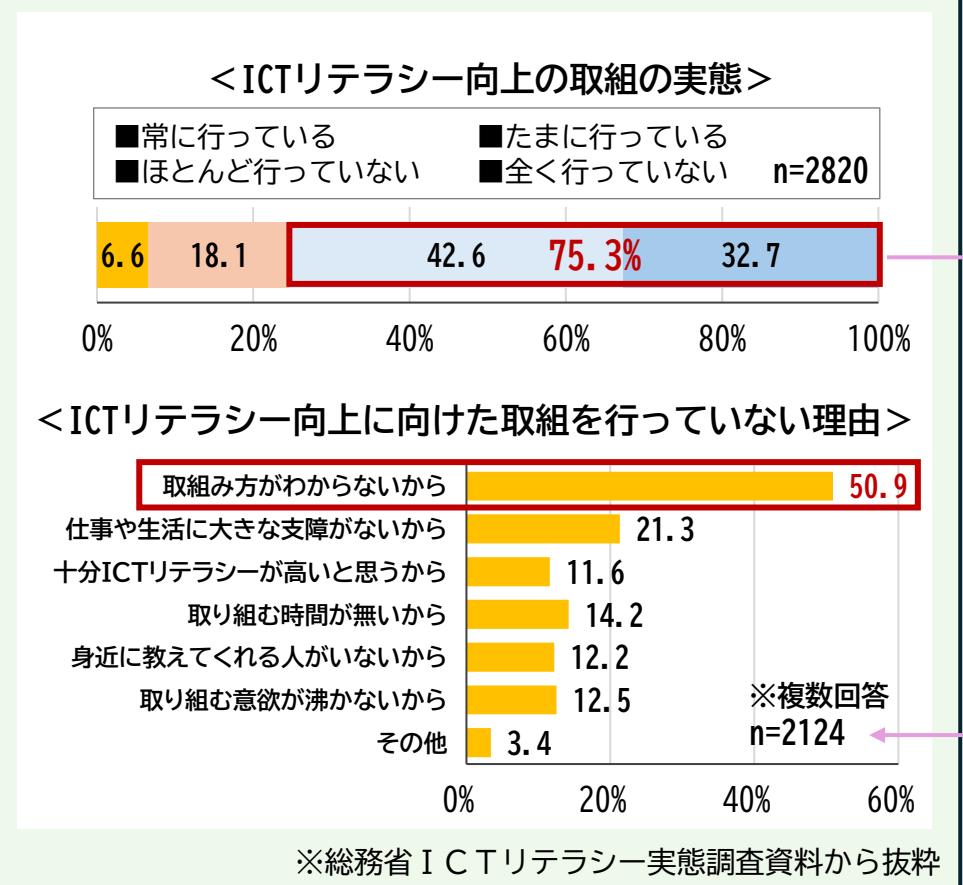
区に関する情報が迅速かつ確実に届く

4-1. 誤情報等への対応 … 13

【参考】誤情報によるトラブル事例 … 14

1. 情報リテラシーに関する現状

- ◆ 総務省の実態調査によると、過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は約50%
- ◆ 約90%の人がICTリテラシーが重要と回答した一方、「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組をほとんど行っていない」、「全く行っていない」という回答が約75%
- ◆ 取組を行っていない理由は、「取組み方がわからないから」という回答が約50%で最多

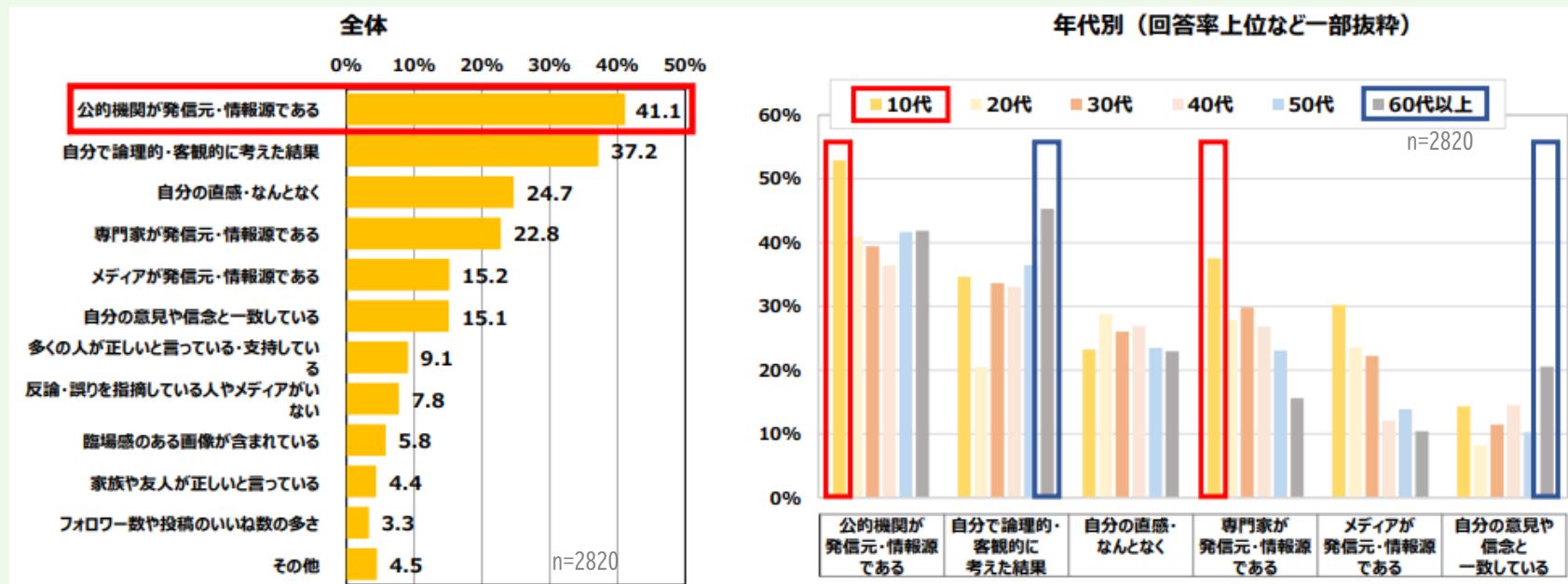


※総務省ICTリテラシー実態調査資料から抜粋

- ▶ 偽・誤情報拡散等のリスクやリテラシーの重要性に関する認識を高めていく必要
- ▶ リテラシー向上に向けて、取組み方の周知や支援を行う必要

1. 情報リテラシーに関する現状

- ◆ 総務省の実態調査によると、SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準は、「公的機関が発信元・情報源である」（41.1%）という回答が最も多かった。
- ◆ 10代では「公的機関」、「専門家」などの回答が多く、60代以上では、「自分で論理的・客観的に考えた結果」、「自分の意見や信念と一致している」などの回答が多かった。



▶ 区に関する偽・誤情報が拡散された場合などに、正しい情報を迅速かつ確実に届けることが重要

2. めざす姿と取組みの方向性

めざす姿

区民が、AI・情報社会において安全・安心に、豊かな生活を送ることができる

- ▶ 区民が、AI等の新たな技術を活用し、多様な情報に触れながらもその真偽を見極めることができ、自身の情報発信に責任を持っている
- ▶ 区民の安全・安心のため、区が適切な情報発信を行えている。



区民一人ひとりの高い情報リテラシー



区に関する情報が迅速かつ確実に届く

普及啓発

情報リテラシーの重要性を広く周知する
とともに、体験機会等を提供

情報リテラシー向上支援

情報を扱う能力の向上に向けた支援を年
齢層に応じて実施

情報のキャッチ

区の偽・誤情報等を素早く把握

情報の確認

事実確認等を迅速に実施する体制

情報の発信

迅速性・正確性のある発信方法・発信内容

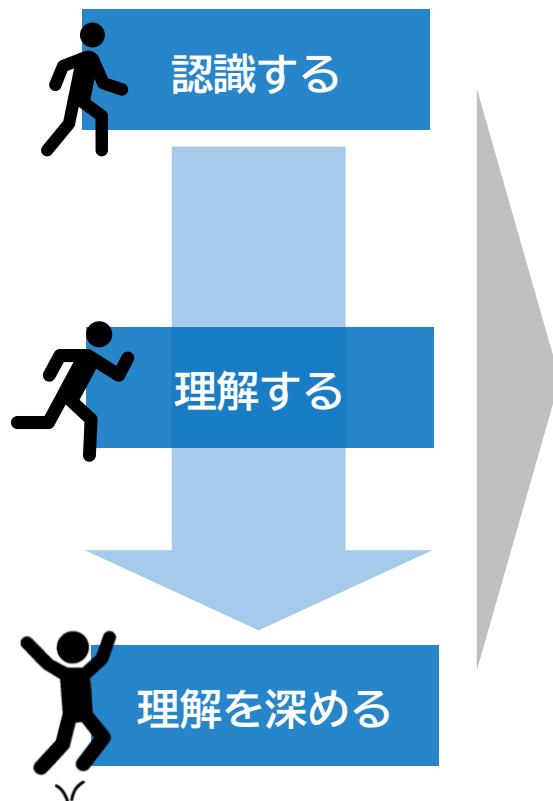
3 – 1. 普及啓発



区民一人ひとりの高い情報リテラシー

区民一人ひとりが、重要かつ身近な課題であることを知るとともに、必要な知識等を習得し理解を深める取組みを検討

情報リテラシーについて



<区が広く周知し、身近な社会課題であることを知る>

- (例) ▶ 区の広報紙やHPでの特集
▶ 有識者等とのオープン型意見交換会（パネルディスカッション）

<情報リテラシーの重要性を把握し理解する>

- (例) ▶ チラシの作成・配付
(偽・誤情報に対する注意喚起、ファクトチェックの必要性を説く)

<情報リテラシーに必要な知識等を習得し理解を深める>

- (例) ▶ 情報リテラシー能力チェック等のコンテンツの提供
▶ セミナー
▶ 体験型イベントや他者との意見交換

※各コンテンツの活用など「DIGITAL POSITIVE ACTION（総務省）」との連携を検討

3 – 2. 支援



区民一人ひとりの高い情報リテラシー

情報リテラシー向上に寄与する現状の取組状況から今後の取組みを検討

■ : 実施している取組み

| 対象 能力領域※ | 子ども | 成人 | | 高齢者 |
|---|---|----------------------------------|-----------------------------------|---|
| | | 保護者 | 他 | |
| 情報を検索、評価、管理する力(情報を読み取る力) 【取得管理】 | | (図書館等) 読書推進 | | |
| インターネット上の違法・有害情報や偽・誤情報のリスクを理解し対処する力 (SNSやAI等の特性に関する理解含む)【安全確保】 | <ul style="list-style-type: none"> 言語能力の育成 資料やデータの見方、活用 読書推進 <p>ちよだリテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育 | <p>「ちよだスマートスクールの日」をはじめ保護者と連携</p> | 成人・高齢者は、情報の評価・判断のスキルは一定程度備えていると想定 | |
| デジタルツール等を活用する力 【活用】 | <ul style="list-style-type: none"> AIツール等の体験、活用 | | セミナーの開催 | <p>よりアプローチが求められる領域</p> <p>注力</p> |
| | | | デジタルチャレンジ支援 | <ul style="list-style-type: none"> スマホ講習会、相談会、体験会 スマホ購入支援 |

【参考】児童・生徒向け実態調査結果

区が目指す「情報を読み解き自己の信念に従って行動ができる人」の育成に向け、児童・生徒の現在のリテラシー能力の自己認識をアンケートにより調査

- ▶ 実施時期：令和7年5月
- ▶ 対象：小学校5・6年生（963名）、中学校・中等教育校前期課程の1～3年生（852名）

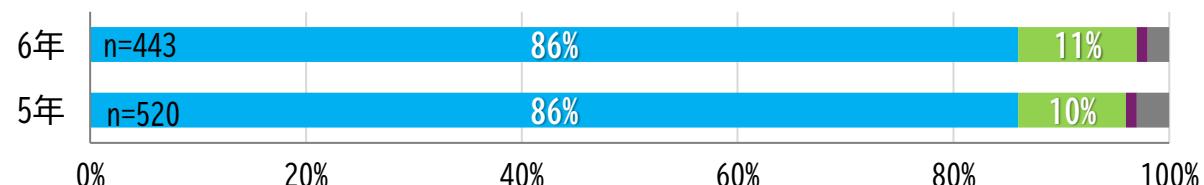
※詳細は別紙資料

言語能力を育む指導や読書活動、情報モラル教育の充実等に取り組み、全体的に良好な結果

<比較的高い能力が示された項目>

- ▶ オンラインコミュニケーションにおける配慮
- ▶ 自己の行動が周囲・社会に与える影響の認識
- ▶ 発信者の立場による伝え方の違いの認識

ネット上で発信するときに、相手を傷つけないための注意点を考えることができる

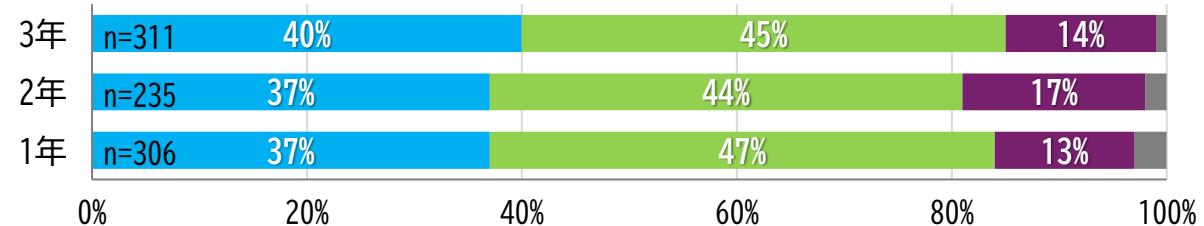


■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

<育成に課題がみられる項目>

- ▶ 確かな情報を見極める力
- ▶ 事実と意見を区別する力
- ▶ 批判的に読み解く力
- ▶ 自分の考えを形成する力

映像作品や報道がどのようなメッセージを伝えているかを批判的に考察することができる



【参考】ちよだリテラシー教育

1 目指すべき子どもたちの姿 「情報を読み解き、自己の信念に従って行動ができる人」(千代田区子育て・教育ビジョンより)

- AIなど新たな技術も活用しながら様々な情報(書籍・新聞・インターネット等)を収集して読み解き、批判的思考力を働かせながら正しく判断できる人
- 自分の考えを表現する方法を相手や目的に応じて適切に選択し、責任をもって情報を発信できる人

2 実現に向けた5つの柱と具体的な取組

柱1 国語科を中心とした 言語能力を育む 指導の充実

- 学習指導要領の着実な実施
- 年間指導計画を基にした意図的・計画的・系統的な指導
- ICTや思考ツール等を活用した授業改善('ICT活用ハンドブック'の活用促進)
 - ・叙述を基にした読み取り
 - ・情報収集の種類と留意点
 - ・新聞の書き方、読み方
 - ・作文指導と推敲
 - ・相手や目的に応じた資料作成と発表

柱2 読書活動の充実

- 読書時間・機会の確保
 - ・読み聞かせ
 - ・ブックトーク
 - ・ビブリオバトル
 - ・読書旬間
 - ・Yomokka!の活用(小)
- 図書館司書等と連携した学級文庫・図書室の充実
- 関係機関と連携した読書体験の機会創出

柱3 資料やデータの 見方・活用における 指導の充実

- 学習指導要領の着実な実施
- 算数・数学、社会、理科の授業改善
 - ・データの多面的な把握、事象の批判的な考察
 - ・社会的事象に関する情報の収集・読み取り・まとめ
 - ・観察記録や実験データの整理・分析・考察

柱4 情報モラル教育の 充実

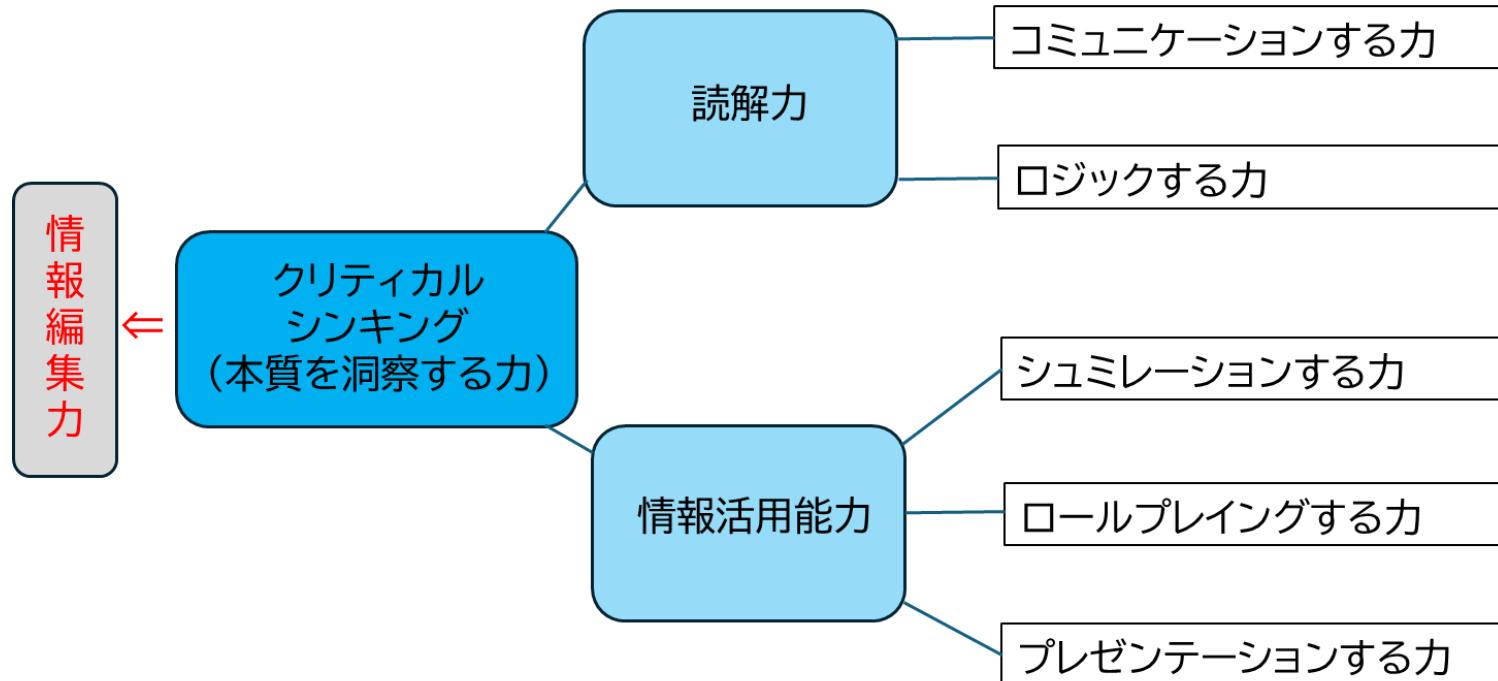
- 外部団体を活用したセーフティ教室
 - 保護者と連携した情報モラルに関する理解啓発
 - 道徳や特別活動、安全指導等、年間指導計画を基にした意図的・計画的・系統的な指導
- 取扱例:フェイクニュースやSNSの利用等、実態に応じて指導

柱5 AIなど新たな技術の 体験・活用

- 教員による校務・授業での生成AIの活用
- 生徒による生成AIの活用(中・中等教育学校)
- 新たな技術を活用した学習の試行
 - ・ドローン
 - ・3Dプリンター
 - ・VR等

育成を目指す力:ITリテラシー、情報リテラシー、メディアリテラシー等(言語能力、情報活用能力)

【参考】読書活動により磨かれる力



参考文献: 本を読む人だけが手にするもの 藤原和博著
情報リテラシーのための図書館 根本彰著
批判的思考力を育てる学校図書館 渡邊重夫著

読書活動を推進することで、情報リテラシーの向上に寄与

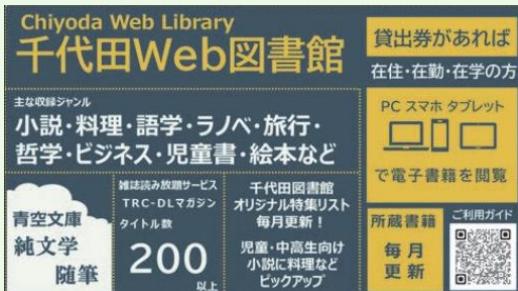
【参考】千代田区における読書活動の推進

- 子どもから大人までの読書活動の普及・発展、世界有数の出版関連産業の集積地といわれる特色を活かした出版文化の振興を目的として、平成19年3月「千代田区子ども読書活動推進計画」を策定
- 令和元年から5年間、「第3次千代田区子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭、学校、図書館、出版関連団体をはじめとする、区内の数多くの団体と協力・連携し、子どもの読書活動を推進
- 特に第3次計画では、「**特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進**」、「**子どもを取り巻く大人への支援**」、「**ボランティア活動の支援**」に注力

これまでの取組みの一例

千代田Web図書館

- スマホ等からネット上で電子書籍の貸出・返却ができるサービス
- 気軽にアクセス可能とし、読書活動をより豊かなものに
- 児童向けコンテンツを**200点**から**700点**に増加



Yomokka!(電子書籍読み放題サービス)の導入

- 令和5年度から、**区立小学校全8校**に電子書籍読み放題サービス「Yomokka!(よもっか!)」を導入
- 一人一台のタブレット端末で電子書籍が読めることができるようになり、いつでもどこでも読書可能な環境を整備



子どもを取り巻く大人への支援、ボランティア活動の支援

- 子どもの読書活動の支援に関する**スキルアップのための講座や勉強会**を開催
- 区と区立図書館が連携し、**ボランティアの活動機会**を提供
- **保護者や教員**向けに読み聞かせ講座や読書活動の重要性を伝える講演会を開催
- 区立図書館司書の子育て・教育関連施設への派遣や学校図書館連絡会の開催により、関係者間の情報共有を推進

第4次計画（令和7年3月）では「基本理念」「基本方針」「施策の担い手やその役割」を掲げ、さらに推進

【参考】読書活動推進・区立図書館の取組み

ヤングアダルト（ティーンズ）向けの取組みが少ないことが課題

| 読書活動推進の主な取組 | | 主な対象者 | 実施館 |
|-------------|-----------------------------------|---------|-------|
| 読書 | 本の貸出 | 全員 | 全 |
| | ブックスタート（絵本・絵本リストプレゼント、読み聞かせ） | 乳児 | 千 |
| | おはなし会（絵本の読み聞かせ） | 未就学児 | 千、四、神 |
| | レファレンスサービス | 全員 | 全 |
| | 調べもの戦隊レンジャー（夏休みの読書や宿題をサポート） | 小学生 | 千 |
| | 情報探索講習会、データベース講座 | 大人 | 千、日 |
| 講座・イベント | 夏休みイベント（多様な専門家が講師となり講座や課外授業を開催） | 小学生 | 四 |
| | ヨムキクちよだ（子供読書週間イベント） | 親子 | 四 |
| | 日比谷カレッジ（ビジネスや歴史文化等の講座やワークショップを開催） | 大人 | 日 |
| | 子ども体験 | 小学生・親子 | 日 |
| | 進路探求ワークショップ（自己理解促進、図書館からおすすめ本を選書） | 小5～中学生 | 四 |
| その他 | 中高生専用席の設置 | 中学生・高校生 | 千、四 |
| | 神保町まち歩き（地域の歴史等を案内、神保町の魅力発見） | 小学生以上 | 千 |
| | 館内展示（地域、出版、大学等と連携） | 全員 | 千、日、四 |
| | 職場体験の受入 | 中学生 | 千、日 |

※全：全館、千：千代田図書館、日：日比谷図書館、四：四番町図書館、神：神田まちかど図書館

3－1. 誤情報等への対応



区に関する情報が迅速かつ確実に届く

地方自治体に期待される役割・責務「情報発信主体の一つとして、地域内外への効果的な発信の実施と発信の信頼性向上に向けた体制の確立」等に向けて検討

(※総務省「デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会 とりまとめ」から抜粋)

情報のキャッチ

区が関係する偽・誤情報等を素早く把握

- (例) ▶ 職員の育成
▶ ソーシャルリスニングツールの活用



情報の発信

迅速性・正確性のある発信方法・発信内容

- (例) ▶ SNS等を戦略的に活用できる職員の育成
▶ OP(オリジネーター・プロファイル)
▶ 国・都と連携した効果的な情報発信

情報の確認

事実確認等を迅速に実施する体制

- (例) ▶ 庁内の役割明確化、連携強化
▶ AIを活用したファクトチェック



※ 区の発信情報等が誤った理解により誤情報等として拡散されてしまうリスクがあることから、発信内容の注意事項の整理や体制についても検討が必要

【参考】誤情報によるトラブル事例

事例）発信情報が、誤った形で拡散され、苦情等による業務への支障、撤回に至ったケース

今年8月20日～22日に開催された第9回アフリカ会議において、国際協力機構（JICA）が「JICAアフリカ・ホームタウン」構想（日本国内の4市を各々アフリカ4か国の「ホームタウン」として認定し、各種の交流事業を通じて、各国と日本の地方自治体との交流を図ることを目的とする）を発表した。

現地政府が「特別ビザ創設」等事実と異なる内容を発信、またアフリカ現地紙が誤解を招く表現等を含んで報道し、それらが拡散された。

自治体へ住民から不安・苦情・問合せ等が殺到し、自治体は対応に追われ日常業務にも影響が出てしまった。

JICA・外務省の対応

- ▶ 一部の報道・発信は事実ではないことを発表（事実関係の発表）
- ▶ 現地政府に対し内容訂正の申し入れを行ったことを発表（のちに現地政府等が訂正対応したことも発表）
- ▶ 構想の撤回を発表（9月25日記者会見）

「ホームタウン」という名称やJICAが自治体を「ホームタウン」として「認定する」という本構想のあり方そのものが国内での誤解と混乱を招き、4つの自治体に過大な負担が生じる結果となってしまった

JICAホームページ等の情報を基に概要資料としてまとめたものであり、詳細は情報元を参照